

1. アンケート結果：中村秀夫教授のメール（8月6日付）のウェブサイトによる。

[https://drive.google.com/drive/folders/1D3SynF8tQtSbTo7mUM\\_jYE6Y7kemhAmT?usp=sharing](https://drive.google.com/drive/folders/1D3SynF8tQtSbTo7mUM_jYE6Y7kemhAmT?usp=sharing)

## 2. アンケート回答者

学生 計 114 名

講演会・対話会への参加状況

講演会(14:40-)だけに参加	77名
対話会(18:00-)だけに参加	32名
講演会・対話会両方に参加	5名

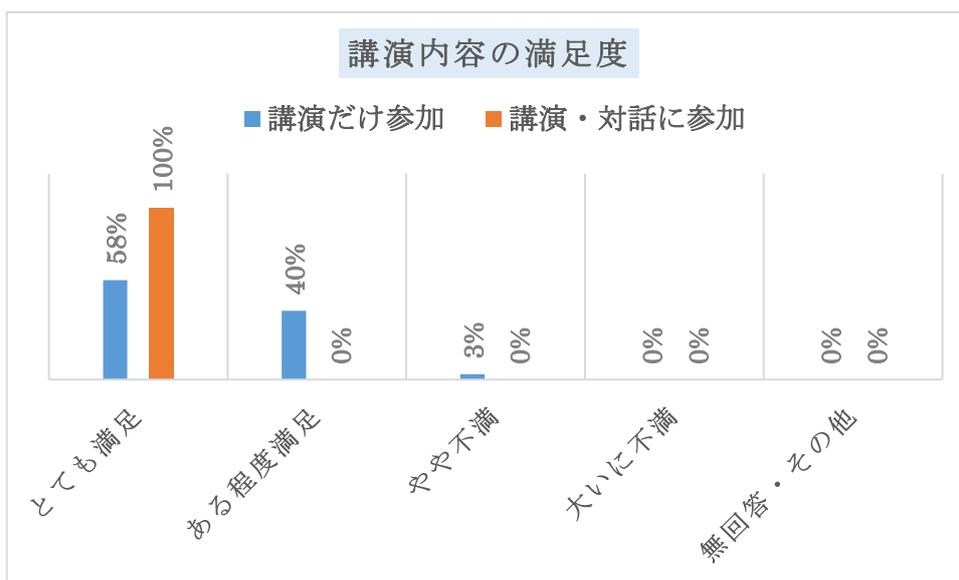
(参考) 参加登録者数

講演会(14:40-)だけに参加	60名
対話会(18:00-)だけに参加	17名
講演会・対話会両方に参加	4名

## 3. 質問項目別集計結果

(1) 講演の内容は満足のものでしたか？

1.講演内容の満足度	講演だけ参加	講演・対話に参加
とても満足	58%	100%
ある程度満足	40%	0%
やや不満	3%	0%
大いに不満	0%	0%
無回答・その他	0%	0%

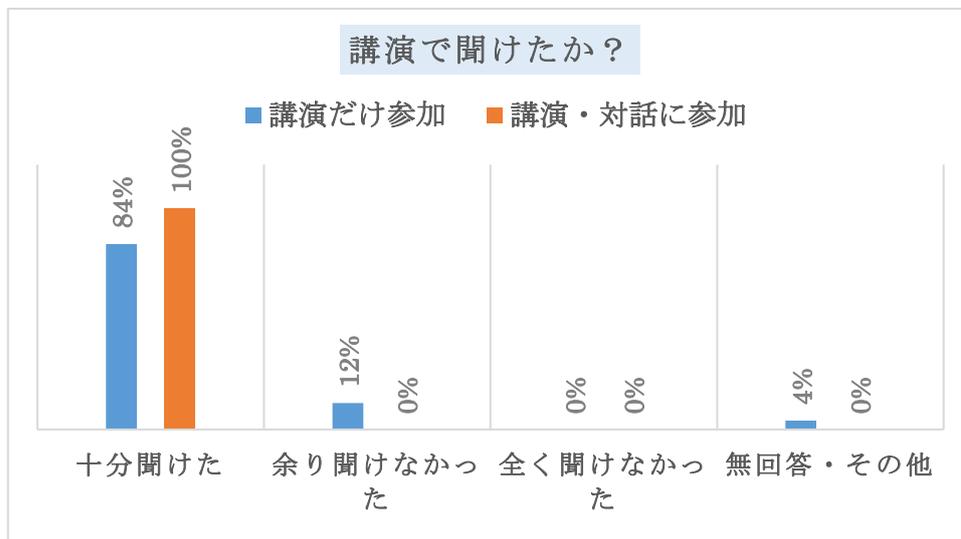


理由（代表的な意見を抜粋した。以下同じ）

疑問に思っていたことや、事前アンケートで質問したことについて解説されていたから  
原子力肯定、否定どちらの面もしっかり聞くことができ、また、新しいことを知ることができたから。  
事前に資料等も配布されていたので、ある程度の準備ができた状態で講義を受けれた。グラフや図を多く扱っていたので、分かりやすかった  
エネルギーの歴史から日本の課題など詳しく教えてくれたから。  
普段の生活では話を聞くような機会がない講義を受けることができたため。  
エネルギーのことについて詳しく知らなかったが、この講演はそんな私でも理解できる説明であったため。  
再生可能エネルギーのデメリットなど知らないことを聞いた  
各国のエネルギー状況や問題点など、世界のエネルギーに対する意識などを知れたのが面白かったから。  
普段の生活では考えないような、しかし将来の日本のことを考えるとちゃんと考えなければならない、エネルギー問題について知れたからです。様々なエネルギー源は長所短所があること、それを多様な発電方法でカバーしなければならないと感じました。  
何が問題になっているのかをぼかさずはっきりと伝えてくれたから  
様々な資料が活用されており、多くのことを学べたが、質問時間がなかったため。（ある程度満足）  
放射線について、リスクのことや私たちの身の回りの放射線についてなど講義で触れた内容よりも深く説明していたから。  
将来に対する危機感、私たちがすべきことを考えるきっかけになり、大変貴重な講演だったから。  
私たちが現在置かれている状況が具体的な数値を基に把握することができ、各種の発電についての情報も量的・システムのにも分かりやすく説明していただき内容についてより客観的に考えることができたからです。リスクについてのお話もとても共感し、広く視野を持つ必要があると改めて感じることができました。  
今回で様々なお話を聞くことができたが、遠隔ということで思うように、お話ができなかったように思え、少しあたふたしたように思えるからです。  
リスクの内容についてももう少し詳しく教えていただきたいかったです。  
メディアの報道だけでは不鮮明だったものを改めて講演会で見つけることで理解が深められたから。  
事前に用意と配布していただいていた資料のおかげもあり理解がしやすかったためです。復習のような感覚で受けることができました。

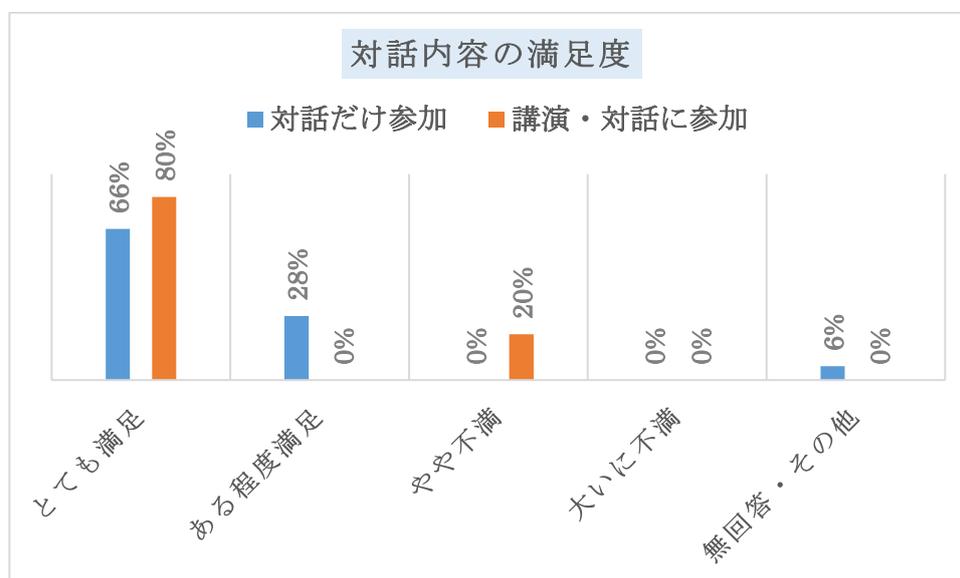
(2) 講演会で聞きたいと思っていたことが聞くことができましたか。

講演で聞けたか	講演だけ参加	講演・対話に参加
十分聞けた	84%	100%
余り聞けなかった	12%	0%
全く聞けなかった	0%	0%
無回答・その他	4%	0%



(3) 対話会の内容は満足のものでしたか？

対話内容の満足度	対話だけ参加	講演・対話に参加
とても満足	66%	80%
ある程度満足	28%	0%
やや不満	0%	20%
大いに不満	0%	0%
無回答・その他	6%	0%



**理由**

SNWの方の中でも色々な考え方を持っている人がいて、参考になったから。

原発に絶対賛成！というスタンスでお話しされていなかったことで先入観なく、議論できた  
他の学生さんの質問とそれに対する専門家の回答までも知ることができた。

どうしても時間の制約によって質問の回答から生じた質問をしている暇がなかったため、悔しく思います。

グループセッションでは、質問に対する回答の資料を読み上げる説明よりもほかのことが聞きたいと思った。ほかのグループのプレゼンではわかりやすくまとめられていてとても勉強になった。

自分の疑問に思っていることを回答だけでなく、さらに話し合いの場を設けていただいて深く知ることができた。

グループ対話に収穫があった

質問への回答の量が予想以上でした。難しいものだと考えていたが説明を聞いて原子力発電や分散型エネルギーなどについてしっかり理解できたからです。

再生可能エネルギーは環境にも配慮しており有効な手段と思い込んでいましたが、原子力発電のエネルギーの生産性やリスク、また、将来の化石燃料が枯渇し、エネルギー源が乏しくなった状態を具体的に値を示していただきながらの説明であったため、日本の状況がより明確に把握することができたからです。

一度目は疑問が残ったが、二度目は実りある時間となった為

今までの考えとは違う見方ができるようになったから。

自分が説明して欲しかったことにとっても詳しく解説してくれており、資料も素晴らしいものだった。また対話会での質問もすぐさま答えてくれて良かった

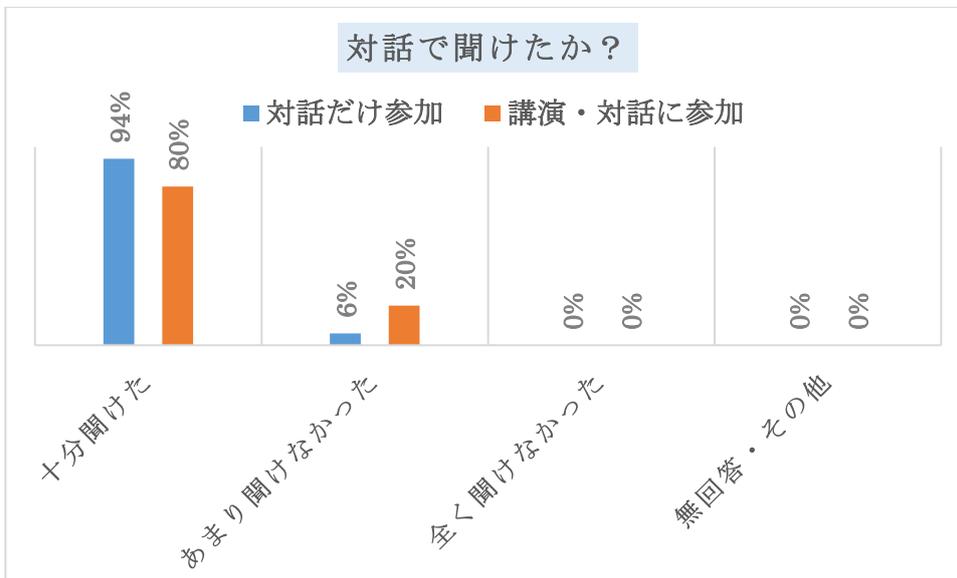
原子力発電について知る貴重な機会になったので、とても勉強になった。ただ全体的に時間が足りず、発表のための準備時間も短かったため、もう少し時間があればよかったと思った。

再生可能エネルギーやシェールガスなど、興味があった発電方法に対して、基本的な特徴と問題点を知ることができた。とくに、再生可能エネルギーは発電するまでのエネルギーの割合が、発電して出来るエネルギーの割合に対して大きいというお話を聞いて、今まで再生可能エネルギーにたいし、言葉のイメージだけで判断してしまっていたと感じました。

グループセッションでは、質問に対する回答の資料を読み上げる説明よりもほかのことが聞きたいと思った。(講演・対話参加者の意見: やや不満)

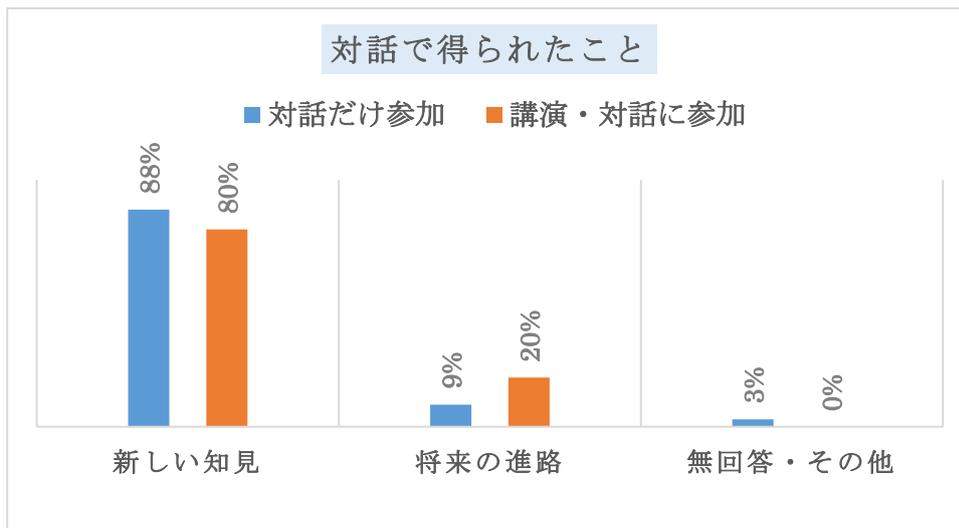
(4) 対話会で聞きたいと思っていたことが効くことができましたか。

対話で聞けたか	対話だけ参加	講演・対話に参加
十分聞けた	94%	80%
あまり聞けなかった	6%	20%
全く聞けなかった	0%	0%
無回答・その他	0%	0%



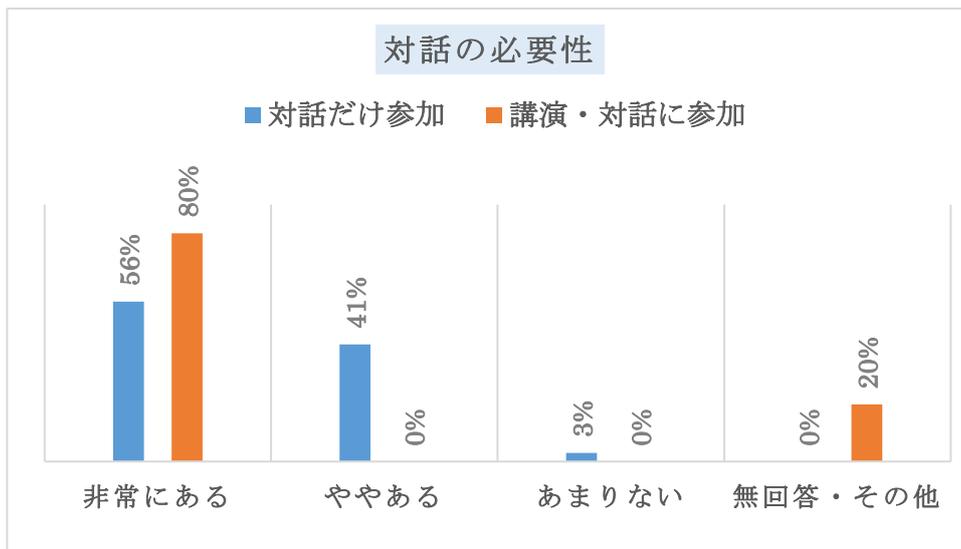
(5) 今回の対話で得られたことは何ですか？

対話で得られたこと	対話だけ参加	講演・対話に参加
新しい知見	88%	80%
将来の進路	9%	20%
無回答・その他	3%	0%



(6) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

対話の必要性	対話だけ参加	講演・対話に参加
非常にある	56%	80%
ややある	41%	0%
あまりない	3%	0%
無回答・その他	0%	20%



## 理由

どの参考書よりも、やはり現場で活躍されていた方々の意見は非常にためになった。

知識の獲得が最も早く、様々なことを知ることができたから。

シニアの方々の話は経験に沿った話が多い為、教訓や目標になることが多く、自分の視点も変えるために必要不可欠だと考えたから。

やはり私たちはあまりに物事を知らないで過ごしていることを改めて実感しました。主に理系の学生が集まったこの対話会でもそれがよく分かるのですから、文系の学生なんかは特に色々知らない可能性があると思います。これからの日本を考える上で文理どちら寄りの生徒でも必要な知識を養う上で、対話会はいきつけにもなるのだと思いました。ぜひ様々な、一見このような学びに無縁に見える学生も巻き込んで勉強したいと思いました。

学生の発想でシニアの方々がもっていないものが出る可能性があるため行うべきだと思います

世代が違うことで違う角度からの議論をお互いに行うことができると思うから。

社会経験や知識が豊富なシニア層との対話は若者に新たな視点を授けてくれるだろうから

学生が考えていることとシニアの方々が考えていることにはずれが生じていると思うのでお互いの意見を聞くことでさらに理解が深まるし、別の視点で見たときに新たな考えが生まれることがあるから。

学生の知見だけでは知り得なかった原子力の知識を聞ける機会は貴重であると考えたから。

学生は知るべき情報が多く厳選して知ることは難しい。シニアの方々の洗練された知識を学生は得ることができ、学生の新しい視点も話し合いには必要になる。相互にメリットのあることだと思う。

世代を超えて議論できる場が必要であるから

専門的に関わっていた方から直接お話を聞けることは授業を受けてる以上にリアリティーがあって関心を持てるから。

学生が独自に学んでいくことも大切であるが、シニアの方のような知識のある方からのお話を聞くことで今の日本の現状を見ながらエネルギーについてや放射線について深い学びができると私は考えるから

生きてきた環境が大いに異なるので、世代間の考えは共有してお互いのメリット・デメリットを話し合ういい機会になると思うからです。

自分が持っていない知識だけでなく、人生経験をもとに若者のためになる知識を教えていただくことができるから。

私自身も再生可能エネルギーの発電量が7分の1ということを知らず、再生可能エネルギーをもっと普及すればよいものだと安直に考えていましたが、今回の対話で新たな知識や考えを知ることによって、より深く将来の日本について考察することができる機会になったため。

原子力については、2011年の原発事故によって悪いイメージばかりが世間に定着してしまい、原子力の持つメリットのほとんどが注目されなくなってしまう現状がある。私たち学生がシニアから教わった正しい知識、考え方をもち、広げていきかけとしてこの対話は非常に重要である。

情報番組などで原子力発電などについて報道されていても、聞き流してしまったり、「本当にそうなのだろうか？」と疑問に思うことは少なくない。今回のような対話を通して原子力についての事実を学ぶ機会は、とても貴重な時間だと感じたから。

授業や自習だけでは得られない知識が身につくから。

放射線や原発は日本に住んでいる限り知っておかなきゃいけない部分だと思っています。なので今回の対話会などで原発や原発の問題など、知る必要が有るからです。

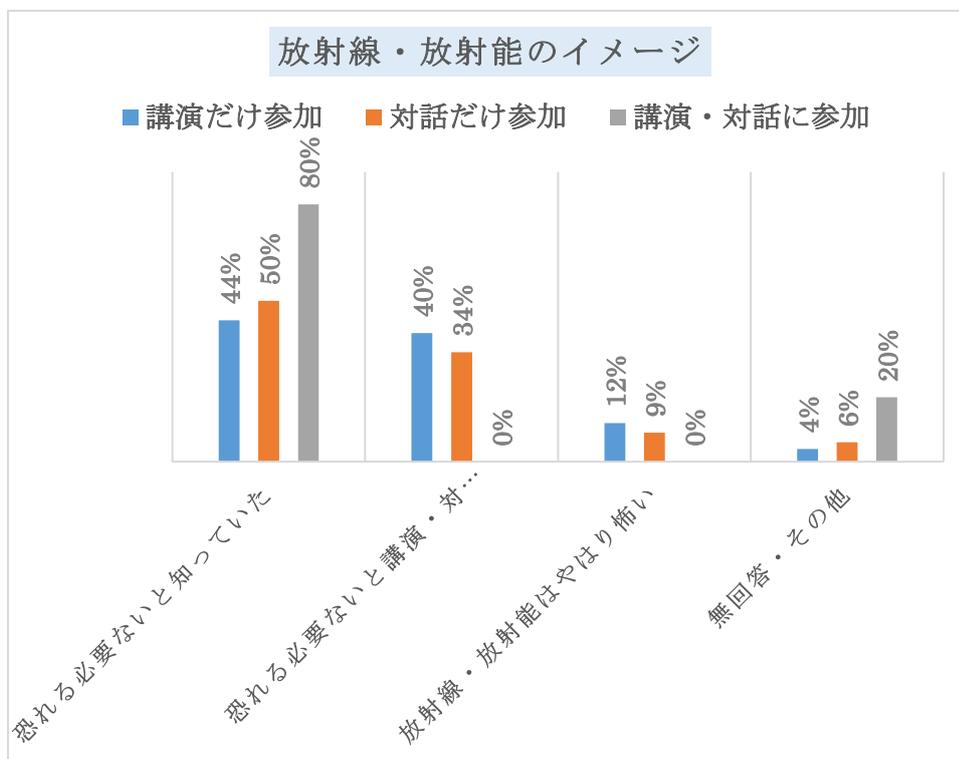
知識を人と対話して得ることで、生の経験者からの経験を文面からだけでは読みとれない大変さや、その場で気になったことを聞けたりできるのは貴重な経験で、飽きることなく聞けるから。

自分から進んで原発などのエネルギー問題に関して深く学ぼうとする学生は少ないのではないかと思います。このような機会を設けていただいたおかげに興味を持った学生も多いと思います。

学生はどうしても歴史に対する知識が少ないのでシニアの方々から何う歴史的背景を踏まえた対話は大事だと感じたから。

#### (7) 放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？ 80件の回答

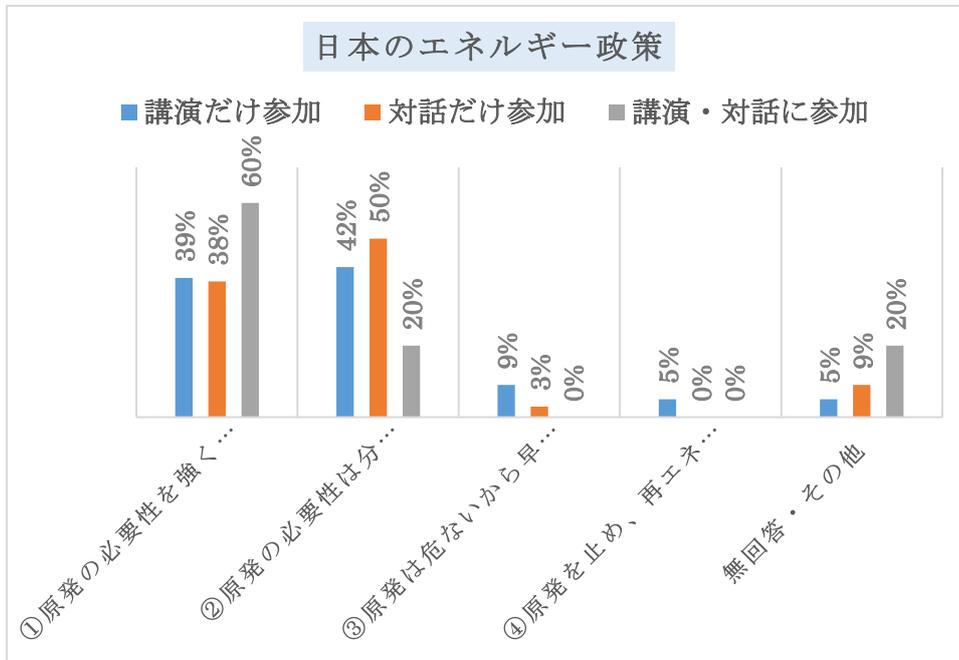
放射線・放射能のイメージ	講演だけ参加	対話だけ参加	講演・対話に参加
恐れる必要ないと知っていた	44%	50%	80%
恐れる必要ないと講演・対話から理解した	40%	34%	0%
放射線・放射能はやはり怖い	12%	9%	0%
無回答・その他	4%	6%	20%



(8) 日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力(2030年に発電電力量の20~22%)とし、可能な限り削減していくとされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？

- ① 原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。
- ② 原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった。
- ③ 原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。
- ④ 原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。

日本のエネルギー政策	講演だけ参加	対話だけ参加	講演・対話に参加
①原発の必要性を強く認識	39%	38%	60%
②原発の必要性は分かっていた	42%	50%	20%
③原発は危ないから早期に削減	9%	3%	0%
④原発を止め、再エネを最大限使う	5%	0%	0%
無回答・その他	5%	9%	20%



## 理由

安全性で言えば再生可能エネルギーがもっとも有効かもしれないが、安定供給ということを考えた時に、再生可能エネルギーは天候に左右されてしまうため、一定量安定してエネルギーを供給するためには原子力発電も必要だと思ったから

地球温暖化に少しでも対応できるようには原子力は適しているから。

「原子力は必要悪」という考え方が最も共感できた。現代社会において必要不可欠なエネルギー源であると再認識できたため。

原子力発電を無くした日本のエネルギー事情は今後確実に崩壊すると思うから。

資源小国日本においてエネルギーの他国依存は避けがたいものと感じていますが、世界情勢が不安定な中ある程度避けられるなら避けたほうがいいものです。しかし自然エネルギーとなるとまだ未熟な場合が多く、今のところ原子力は使わざるを得ないのではないかと感じていたからです。

原子力発電を削減した分を、エネルギー密度が低い再生可能エネルギーで賄うことは難しいと考えたから。

再び事故が起こったら收拾つかないことになり得るので原発は止めるべきである。再生可能エネルギーで十分な電気を発電できないのは承知の上だが、原発を増やすために力を注ぐのであれば、再生可能エネルギーの開発・技術向上に尽力した方が良くと思う。

温室効果ガスなどのことも考えたら原子力発電が一番いいと思った。どの発電にもメリット、デメリットがあると思うのでそれぞれで足りないところを補っていったらいいと考えたため。

原子力発電が多くの発電量を担っていることや、安全に使用すべく様々な基準を設けているということも理解はしたが、やはり自然災害が多く発生する日本では、また 3.11 の福島事故のようにならないとは言えないと考える。そのことからやはり、原子力発電を使用するのはこの先厳しいと考えたためである。

日本のエネルギー自給率の現状を考えても原子力発電の撤廃は危険だと感じるため。

対話で原子力があることと原子力がないこととリスクについて話していただいて、改めて原子力発電を動かす必要性に納得した。

必要性については以前から持っていた認識とあまり変化がなかったため。

原子力発電は危険なものと警戒し否定的な意見を持っていたが、地層処分などで人間に悪影響がないような処分をしているということだった。それでも危険だと思うのはマスコミなどの刷り込みで、安全に処理をしているという報道をあまりしないのが理由だとわかった。しかし今回の対話会で自分が異常に警戒しただけだったのかもしれないということがわかりました。

原子力発電のリスクは2011年の事故によって日本国民に広く知られ、悪であるというイメージが強烈に沁みついてしまったためにこれを停止すべきだという情勢が強くなっていることはとても理解できるし、私自身の中にもそういった考えは多少あった。しかし、今回の対話会を通して日本の現在のエネルギー事情、原子力発電のメリットや安全対策について学んだことによって原子力に対する印象が大きく変わった。

原子力発電以外の発電方法が、必ずしも安全だとは言いきれないことが今回の講演で分かり、上手く併用していくことが重要であるとわかったから。

今回の対話を通して、必要以上に原子力発電を恐れることはないという印象を抱いたから。しかし、際限なしに原子力発電量を増やそうということではなく、市民の理解を得られるように努力したり、綿密な計画の下利用していくという条件下で他の発電方法と併用していくことが求められると感じた。

化石燃料が無くなる時代もそう遠くないため

資源が少なくエネルギー自給率が低い日本にとって原子力はある程度必要だと感じた。

原子力発電がもたらす恩恵が、リスクに比べてはるかにおおきいから

原子力発電は東日本大震災での事故で一般ではあまり良くないイメージを持たれているが、発電の効率は非常によく代替となるものが存在しないため発電を止めた際に日本は深刻なエネルギー不足に悩まされると考えたから。

福島原発事故を経て、現在は十分な安全対策がされていることを知ったので、もちろん危険性は0ではないが、このままエネルギーを使い続け、資源を枯渇させていくことの方が問題であると思ったから。

自分が今まで持っていなかった視点から「科学」というものを考えるきっかけになりました。科学は必要悪、という言葉聞いて、デメリットがあるからという理由で簡単に排除しようとするところこそ、間違っていたのかもしれないと感じました。

もう少し話し合いをしたかった。また、ズームだったので喋りづらく、直接話を聞きたかった。(講演・対話参加者:その他の意見)

## 11. 今回のネット対話についてどのように感じましたか？

対面での講義ではなかったものの、貴重な体験であることはネット対話だからといって変わるものではなく、ネット対話でもとても良い授業ができたと感じた。

ネット対話は普通の対話より手間がかかるが、シニアの方々と学生の皆さんの場所を問わず、対話ができるので良いと思いました。

資料も見やすく、音声もしっかりと聞くことができたのでその点はよかったが、やはりインターネットの弱点として、接続状況が不安定になるとどうしても止まってしまうのでそこだけがストレスであった。

対話には参加していないが、話者がわざわざ現地に赴く必要がなく、また、資料を見ながら話を聞けるので、今後も講演会はネットごしで良いと感じた。

シニアの方の一方的な説明より(熱心でありがたかったが)、対話を重視して、先輩たちの放射線に対する考えなども聞きたかった。

対面の方がよいと思う。

家にいながらシニアの方と対話できるのが新鮮でよかった。しかし主に学生のパソコンの使い方やネット環境に、対話会自体のクオリティが左右されてしまうのではないかという懸念も残った。

多少の音声ミスがあったのでそこを改善してもらいたい。

ネット環境に左右されやすくパソコンが重くなり聞こえづらい部分もあった。

質問の機会が欲しかったです。

直接対面でお聞きしたかったが、ネット対話という手法で対話することでまた一味違う対話が出来たと思いました。ラグはあったが、聞きたいことが聞けて満足した

私は、今一年生で前年までどのような対話会などが行われているかわからないのだが、私的にはネットを通してでもかなり深い学びを得られることが分かった。とても充実したものであった。

個人的には対面の形式でお会いし、ご厚誼を拝聴したかったですが、今の社会の状態の中では最大限理解しやすい内容にくださりとても理解しやすく、知見を得ることができました。

どうしても電波環境によって聞き取りづらいこともあるが、遠方の方も参加できる利点があるので、この形式での対話会も良いと思います。

直接話を聞くことができないのは物足りなさも感じますが、録画をすることで見返すことができるのは勉強のためにはよいと感じた。

パソコンが重くてスムーズなやり取りができない人がいるなどの問題はあったが、基本的には特に苦労もなく進めることができたと思う。直接会って話すのが一番いい形だとは思いますが、この状況下ではオンラインでの実施というのも仕方ない部分かなと感じた。

集中して話を聞けるので良いと思う。

やはり、対面と比べて反応が返しにくい点が不便。

ネット環境が悪く、声を聞き取るのが少し大変でした。

資料などもパソコンからだが見やすいと感じたので良かったと思う

(9) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

エネルギーに対して理解が深まりました。この企画を開いて下さった皆様な感謝です。

原発事業の最前線で働かれていた方の意見はとても有意なものであり、悪いイメージに対して正確な回答が得られたことで、原子力発電に対し恐怖感は少なくなった。今後もこのような対話会があれば参加したいと思った。

はじめてネット対話をしたが想像してたよりも良かったです

沢山のお話を聞けました。様々な事件、裁判、問題についてたくさん例示して下さい、分からないものもありましたが、メモを残してあるので後で調べてみようと思います。勉強になりました。

私は原子力発電が反対されているのはメディアによるイメージの植え付けやよく分からないままとりあえず福島事故があつて危険だから原子力発電はだめといった感じになっているのではと思った。そのため若い人が中心に原子力への理解を深める必要があると思ったので自分もそのひとりであることを忘れないようにしたいと思った。とても有意義な時間を過ごすことができた。

今回の企画はテレビや新聞などで報道するべきだと考えます。日本国民(とくに原発反対派の人間)はこの問題に関してしっかり目を向ける必要があります。とても有意義な時間でした。ありがとうございました。

情報を提供してくれる人はあまりデメリットを言わないがはっきり言ってわかってわかりやすかった。

各国のエネルギー状況や問題点など、世界のエネルギーに対する意識などを知れたのが面白かったです。またエネルギーを作る際に必要なエネルギーの話など、自分が知らなかったことについても知ることが出来ました。対話会に参加して自分の知識が足りないために話の内容が分からないこともあったのでもっと自分でも放射線やエネルギーについて勉強しようと思った。

アメリカやヨーロッパなど様々な国が原子力発電を行っている中で日本は資源小国であるにもかかわらず原発に否定的で国民の理解も低い。たしかに、福島のような事故は今後起こすべきではないし、起こさないよう対策が必要であるけれどそれが原発の停止ではないと思う。原発は他の発電方法に比べて効率よく発電できるのだから、フランスのように推進していくべきだと思った。

これまでのエネルギーの変遷から現在、そして将来に関する事まで詳しく説明していただき、エネルギーに対する自分の考えを持つうえでとても参考になりました。原子力発電の装置の80%が安全装置だという話を聞き、驚きました。また、エネルギー問題は簡単に解決できる問題ではありませんが、リスクやメディアとの向き合い方を見直し、より適切な選択ができるよう、正しい知識を身に付けたいと思いました。このような状況下でも、貴重な講演をしていただき、ありがとうございました。

ネット上で行うことへの慣れが必要だと感じました。

今後も原子力に関する意見の場を設けてほしい。また、原発に反対の立場の意見も聞いてみたい。

自分が疑問に思っていたことの回答に加え、補足してお話をしてくださって深く知ることができた。グループごとでの話し合いだったので、他の人の質問も聞くことができ、知識が増えた。強く納得した部分もあり、とても良い機会だった。もっといろんな話を聞きたかった。

原子力に関わる歴史的背景を深く学ぶことができたのが大変ためになりました。「失敗を認めない社会に進歩はない」というお言葉が胸に刺さりました！

前回の講演とはまた違った内容が聞けて面白かったです。放射線の複雑で難しい部分ばかりではなく、人類の歴史と絡めてお話ししてくださったりと、わかりやすかったです。

教条主義に陥ることなく、私自身の頭で考えていくことが大切だと感じた。

またこのような機会があれば進んで参加したいです。ありがとうございました。

より客観的なデータを基に説明していただき、各発電によるメリット・デメリットや発電量の単位・数値、文化的な背景まで幅広い視点から問題を捉え、それぞれのリスクを考える必要性を感じられました。また、メディアが一方的に取り上げる内容について警鐘を鳴らし、メディアリテラシーの重要性も感じられました。将来、エネルギーが枯渇するであろう日本社会に必要とされる判断をリスクの観点から比較し決定していくことが大切であると感じました。ありがとうございました。

原子力発電の事や、今後のエネルギー問題については今回の講演会でのお話を聞いて勉強になった。今度は原子力発電の賛成派と反対派の両者の意見が聞きたい。

今回の講演会で、原子力発電やエネルギーについて詳しく学ぶことができました。自分は当初、原子力発電は必要になってくるということは知っていましたが、やはり恐怖感も強く、まだ必要ではないのではと考えていました。しかし、今回の講演会で、現在とこれからのエネルギー事情、リスクと共存する覚悟を持つことの重要性を学び、日本も原子力発電を、リスクがあることを承知で安全面などを徹底しながら稼働させていくことが大切であると学ぶことができました。今回は本当にありがとうございました。

今後も同じような機会を増やしてほしいと思った

楽しかった。最後の学生のグループ発表のすすめ方をもっとしっかりできていれば良かったと感じるので、その決め方や、だれがどんなことをやるかを、円滑に進められるような流れをもっと明記してほしい。

日本にはまだまだ原発を一方的に悪だと決めつけている人も多いと思います。メディアの伝え方の改善や理解している人が正しい情報を発信することが大切なのだと感じました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。**日本のエネルギー事情について良く考える機会になりました。またこのような機会を行うときは対面で参加したいと感じました。**

原子力を考えるときは、人口やその国の文化、国民性、政策と一緒に理解していく必要があるということを知れたことに最も価値があったと考える。

たいへん有意義な講演会をしていただきありがとうございます。大学という専門機関であり環境と放射線という授業があったからこそこのような機会に恵まれたのだと思います。**これまでの私は文系だからという理由で理系の話は敬遠してきましたがそれでは騙されたりすることを認識することができました。改めて情報収集のあり方を見つめ直すと共に専門的な知識をもつ人や団体の話を聞き正しい知識と理解を得ていきたいと思っています。**

#### 4. まとめと感想

- (1) 講演と対話に対する参加学生の満足度については、大多数が“とても満足”又は“ある程度満足”とした。そのうち、講演と対話の両方に参加した学生の方が、講演だけまたは対話だけに参加した学生より総じて満足度が高かった。  
満足の理由としては、多数の学生が“シニアの経験に基づく豊富な知識により、エネルギー・原子力の役割を理解した”を挙げた。対話に参加した一部の学生からは、他の学生の質問・意見も聞いて良かったとした。
- (2) 聞きたいと思っていたことは聞けたかについては、対多数が十分聞けたとした。講演だけに参加した一部の学生から、“質問する時間がなかった”ことを“あまり聞けなかった”の理由とした。講演と対話に参加した学生の一人から、対話に関して“資料の説明だけで、聞きたいことが聞けなかった”を“やや不満”の理由とした。
- (3) 「学生とシニアの対話」の必要性については、対話だけ参加者も、講演と対話の参加者ともに、ほとんどが“非常にある”又は“ややある”とした。対話だけ参加者では 41%が“ややある”、3%が“あまりない”としたが、理由欄はともに空白であった。また、講演と対話に参加した 5 名の内、1 名については回答はなく、“グループセッションでは、質問に対する回答の資料を読み上げる説明よりもほかのことが聞きたいと思った”のコメントの記載があった。必要とした理由は、(1)満足に対する理由とほぼ同じ内容であった。
- (4) 放射線・放射能のイメージについては、ほとんどの参加学生が、“一定のレベルまで恐れる必要ないと知っていた”又は“一定のレベルまで恐れる必要がないことを講演・対話から理解した”であった。しかし、講演・対話に参加した学生の 80%は前者の“・・・知っていた”であったが、講演だけの学生の 40%、対話だけの学生の 34%は、“・・・講演・対話から理解した”であり、講演又は対話で放射線・放射能に関する学習効果があったことを示している。また、講演だけの学生の 12%、対話だけの 9%は、講演や対話に参加してもなお“放射線・放射能はやはり怖い”としており、放射線教育の必要性がまだ高いことを示していると言える。
- (5) 日本のエネルギー政策については、参加学生の 80%以上が、“原発の必要性を強く認識した”または“原発の必要性は分かっていた”とした。しかし、“原発は危ないから早期に削減”とした学生は、講演だけ参加学生の 9%、対話だけ参加学生の 3%であった。また、“原発を止め、再エネを最大限使う”として学生は、講演だけ参加学生の 5%であった。講演と対話に参加した学生の一人は、この質問には無回答とし、“もう少し話し合いをしたかった。また、ズームだったので喋りづらく、直接話を聞きたかった”とコメントした。この学

生は(3)でもコメントしている。

(6) アンケート結果から、総体的に次のことが言えよう。エネルギーや原子力に対する理解度は、講演・対話参加学生、対話だけ参加学生、講演だけ参加学生の順に高く、学生の80%以上が原子力の役割を理解しているように見える。しかし、約21%の学生が放射線・放射能をやはり怖いと感じており、その結果約17%の学生が原発を削減し、再エネ活用の意見に傾いている。

対話会にネットを利用することについては、多数が肯定的な意見であるが、資料の説明だけでなく、シニアとの直接 Q&A を望む意見もあった。グループ対話では他の参加者の意見も聞けるとの前向きな意見もあった。

以上